

## アメリカ経済を支えるオイルマネーと有力新興国

高村幸治

### アメリカを中心とする マネーフローのリスク要因

アメリカを拠点として、グローバルなマネーの流れを議論するなかで、きまって話題となるのが、原油高騰を背景とするいわゆるオイルマネーの動向と、原油需給逼迫懸念の背景となっている中国、インドなどエマージング諸国の台頭である。

実際、2005年8月にゴールドマン・サックスが約300人のエコノミストに対して実施した調査の結果によると、世界経済に関して今後最も重要とされるリスク要因は、原油需給および原油価格、

テロ、アメリカの経常赤字とドル、中国の位置づけ、地政学的リスクの5つであった。これら5つのリスク要因は、相互に関連し、アメリカを中心とするグローバルなマネーフローのリスク構造を形作っている。

本稿では、アメリカを中心とするマネーフローの構造を俯瞰し、どのようなリスクが存在するかについて考察してみたい。

### 増加し続けるアメリカの 経常赤字を埋め合わせる 海外資金流入

アメリカ財務省のデータによれば、2005年上半期における海外からアメリカへの長期証券投資による資本流入は、図1に示すように4459億ドルという高い水準を示しており、この資本流入によってアメリカの経常赤字が埋め合われている。

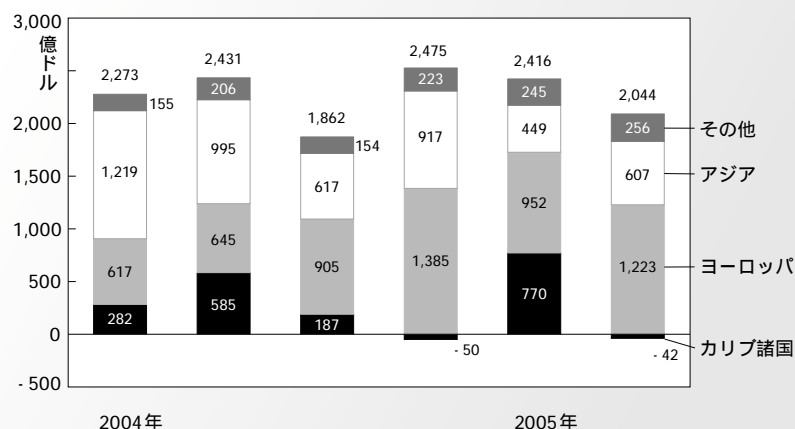
ここ数年、アメリカにおける経常赤字を理由とするドルリスクに関して多くの議論を目にする一方

で、経常赤字の水準は、依然として増加基調にある。2005年上半期の経常赤字は3943億ドルと、前年同期比26%の水準となっており、多額の経常赤字を海外からの資本流入が支えるという構造は、より強まっているように見える。

2005年における海外によるアメリカへの証券投資の特徴として、ヨーロッパを経由してアメリカに流入するオイルマネーの存在、

ヘッジファンドとアメリカの間で発生する資金流出入の動きの2点が指摘できる。

図1 海外からのアメリカへの長期資本投資



注) 上に示した数値は各地域からの投資額の合計(資本流入額 - 資本流出額) 出所) アメリカ財務省の統計より作成

(1) ヨーロッパを経由して  
アメリカに流入する  
オイルマネー

2004年後半から継続して、アメリカへの資金流入源としての、ヨーロッパの重要性が高まっている。ヨーロッパはイギリスを代表として、グローバルな資金の流出入を媒介するマネーセンターとしての機能を高めている。

2005年に入ってからの特徴として、ヨーロッパからアメリカへの資金流入の背景に、原油高騰を理由とするオイルマネーが存在することが指摘されている。これらオイルマネーは、イギリスを中心としたヨーロッパの金融機関を経由して、結果的に、アメリカの債券投資に回されているといわれており、実際、サウジアラビア通貨庁による外国証券投資の残高が2004年後半から急増していることも、オイルマネーとアメリカ債券との関係を示唆するものといわれている。

(2) ヘッジファンドとアメリカ  
の間で発生する資金流出入

また、2005年第1四半期に特徴的な傾向を示したのが、アメリカに隣接するカリブ諸国からの資金流入である。近年、カリブ諸国はヘッジファンドの拠点としての存

在感を高めており、ヘッジファンドを経由するマネーがアメリカへの証券投資として還流している。2005年第1四半期には、図1に示したように770億ドルという高い水準でアメリカへの証券投資が行われた。

ヘッジファンドは、その投資の性格上、投資環境に基づいて、時期によって買い越し・売り越しにおける高い変動性を示している。実際、2005年第1四半期における買い越しは、第2四半期には売り越しに転じ、7月には再び買い越しに転じた。

ヘッジファンドとアメリカの間で高まっている、このような資金の流出・流入の動きは今後ますます高まり、アメリカを中心とするマネーフローにおけるヘッジファンドの影響力はますます高まっていくだろう。

中国、インドなどエマージ  
ング諸国の重要性

さて、原油価格高騰の背景として、中国、インドなどエマージング諸国の経済発展により、エネルギー資源に関する需給が逼迫していることが多く議論されている。最近では、中国の石油会社によるアメリカのエネルギー会社の買収の試みが失敗したことも大きな話

題となった。

外貨準備高は、中国7110億ドル(2005年3月)、インド1363億ドル(同6月)と、日本の8478億ドル(同8月)に比較可能な水準となっており、この外貨準備を背景に、グローバルなマネーフローにおける中国、インドなどエマージング諸国の存在感は際立って大きくなってきている。

金融機関のグローバル戦略に  
おいて重要になる地域戦略

グローバルな資本取引の連動性がより緊密になっていくなかで、アメリカを中心として連関するマネーフローの構造は、不均衡に陥るリスクをはらみながらも、ますます地域間の緊密性を高めている。

エマージング諸国の台頭が今後も持続する可能性が高いことを前提とすると、欧米における金融機関の事業戦略において、これらエマージング諸国の資本市場との関連性や、オイルマネーやヘッジファンド経由のマネーの流れと、どのような戦略的連関性を持たせるべきかという視点が重要になってくると思われる。

高村幸治(たかむらこうじ)  
NRIアメリカ上級コンサルタント